

「ものづくり地産地消推進事業費補助金」の採択事業の概要 ～ 平成23年度 第3次採択分 ～

H24.1.5 工業振興課

「補助対象事業」

県内に需要がある機械及び設備について、県内で試作開発しようとするもの

【ステップアップ事業：1件】

上記「補助対象事業」の中で、構想段階から基本設計までを取り組む事業

（補助率：1／2以内、補助限度額：100万円）

	企業名	テーマ名	事業の概要
1	(有)坂本鉄工所	陸閘、水門等の閉鎖作業自動化装置に係る機能確認	従来の陸閘や水門は、手動で開閉するものが大半であり、地震発生時に開閉作業を行うと津波被害に遭う可能性がある。このような問題を解決するため、エアモーターを利用した駆動装置や独立電源の開発を行うと同時に、遠隔操作が可能な試作機開発のための機能確認を行う。

【試作開発事業：2件】

上記「補助対象事業」の中で、具体的な製品の試作開発等に取り組む事業

（2社以上の場合 補助率：2／3以内、補助限度額：1,350万円）

（1企業単独の場合 補助率：1／2以内、補助限度額：1,000万円）

	企業名	テーマ名	事業の概要
1	美津和産業(株) ・ (株)葉山ヒューテック	山椒粉碎機の試作開発	県内で使用されている山椒粉碎機は、機械内部で商品が詰まったり、ベルトの摩耗といった点が課題となっている。そこで、粉碎機本体部への山椒の供給量を調整できるようにした上、粉碎回転盤を山椒に最適な回転数に調整できるようにした粉碎機の試作開発を行う。
2	(有)サンライズマシン	ペット糞処理袋製造機械の試作開発	ペット糞処理袋は、現在中国において手作業で加工されており、ペット糞処理袋の内側の袋と袋を包んでいる外側の紙が離れてしまい、使い勝手の向上が望まれている。そこで、機械化によって、内側の袋と外側の紙が密着した袋を製造できる機械の試作開発を行う。

「ものづくり地産地消推進事業費補助金」の採択事業の概要 ～ 平成23年度 第2次採択分 ～

H23.9.7 工業振興課

「補助対象事業」

県内に需要がある機械及び設備について、県内で試作開発しようとするもの

【試作開発事業：11件】

上記「補助対象事業」の中で、具体的な製品の試作開発等に取り組む事業

（2社以上の場合 補助率：2/3以内、補助限度額：1,350万円）

（1企業単独の場合 補助率：1/2以内、補助限度額：1,000万円）

	企業名	テーマ名	事業の概要
1	関西仮設(株) ・ (株)西原鉄工所	雨の侵入と粉塵の飛散を防止する簡易屋根トラスの試作開発	従来の仮設足場では上部が開放しているため、雨天時の作業効率の低下や進捗遅延といった問題がある。また、施工現場で発生する粉塵により、近隣住民からクレームが発生する場合がある。このような問題を解決するため、低コスト・短時間で簡単に設置できる仮設足場の上部を覆う設備(簡易屋根トラス)の試作開発を行う。
2	(株)高知地質調査	高品質なコアと方位の分かるコアとを同時に採取する装置の試作開発	鉱山の探鉱や地すべり調査ボーリングにおいて、高品質なコアと方位の分かるコアとを同時に採取する手法が必要とされているが、現在、実用化されているものがない。このニーズに応えるため、掘進回転する外管に対して、一定方位に制止させる機能を備えた内管との二重管コア採取装置の試作開発を行う。
3	(株)高知丸高 ・ ユタカ重機工業(株)	津波避難施設に設置する手巻き式ゴンドラの試作開発	従来の津波避難タワーには、昇降方法として階段しかなく、避難弱者(体が不自由な方等)は階段を使って高所へ避難するのが困難な状況にある。また、地震発生後は、停電となる可能性もあり、エレベーターの使用も困難となる。この問題を同時に解決するため、津波避難タワーに設置可能で、車椅子利用者も搭乗可能な手巻き式ゴンドラの試作開発を行う。
4	(有)ソイルファーム	未利用熱エコ乾燥機の試作開発	県内のくん炭・培土業者が行っている炭化、乾燥作業では、灯油バーナーを使用しており、燃料費の削減が課題となっている。そこで、この課題に対応するため、熱や乾燥の分析等を行い、炭化工程から発生する熱を乾燥工程に利用することで、燃料費の削減を可能とするエコ乾燥機の試作開発を行う。
5	(株)相愛 ・ (有)サット・システムズ	施設園芸用木質ペレット焚暖房システムの試作開発	既に県内で使用されている木質ペレット焚暖房システムにおいて、温風式熱交換器の形状の小型化や、送風方式の多様化を行い、多用途での使用ができるよう試作開発を行う。また同時に、高出力・多用途バイオマスバーナーについても、県内の園芸ハウスで使用できるよう、高い暖房負荷条件下のもとでの試作開発を行う。

6	(株)ダイドウ ・ (有)四国浄管	震災時などの緊急災害時に対応できる衛生設備の試作開発	東日本大震災発生後、高知県では南海地震に備えた対策が活発化しているが、その中でも、衛生面の悪化が懸念されている。そこで、地震によりライフラインが寸断された状況でも早急に設置でき、水の循環利用を行うことで一定量の水があれば使用できる衛生設備の試作開発を行う。
7	(株)トリムエレクトリックマシナリー	環境に優しく収益性の良い農業を目指す電解水整水器の試作開発	農業分野において、付加価値の高い農作物を販売するために、電解水を使用した農作物の生産ニーズがある。そこで、還元水の育成促進効果や酸性水の殺菌補助効果を検証した上で、水道水や地下水を長時間安定して電気分解する能力を持ち、同時に電気分解によって生成する電解還元水整水器の試作開発を行う。
8	パシフィックソフトウェア開発(株) ・ (株)モリサ	紙原料加工機の試作開発	和紙の原材料であるコウゾは、皮剥ぎが重労働であり大変なため、生産量も減少の一途をたどっている。また、生産用具などの生産基盤も不足しており、その確保が課題となっている。そこで、重労働である原料となるコウゾの皮剥ぎから白皮へ加工する一連の工程を機械化のための試作開発を行う。
9	(株)葉山ヒューテック	高野豆腐脱水機の試作開発	豆腐脱水機が古く、衛生面や処理能力の低さなどが課題となり、生産性の向上ができないという依頼がある。そこで、豆腐の脱水作業を衛生的に行うと同時に、処理能力をアップさせた機械の試作開発を行う。また、県外に頼っていた機器のメンテナンスについても、県内企業で行えるようにする。
10	理工エンジニアリング	魚体自動補正機能付き腹骨取り三枚下ろし機の試作開発	現在の魚類用三枚下ろし機は、魚の種類や大きさに合わせて、複数の専用機械を保有するか、困難な刃幅等の専門的機械調整が必要であった。この課題に対応するため、今まで蓄積した水産加工のノウハウを活かし、誰でも簡単に操作できる多品種対応で調整不要な魚類用三枚下ろし機の試作開発を行う。
11	渡辺機材(株)	ミョウガの養液栽培による排水処理装置の試作開発	ミョウガの養液栽培においては、栽培時に排水が排出されるが、排水の水質を向上して欲しいという依頼が、近隣の漁協組合やミョウガ農家から挙がっている。そこで、水素イオン濃度を上げ、窒素含有量やリン含有量を低下させる排水処理装置の試作開発を行う。

「ものづくり地産地消推進事業費補助金」の採択事業の概要 ～ 平成23年度 第1次採択分 ～

H23.6.28 工業振興課

「補助対象事業」

県内に需要がある機械及び設備について、県内で試作開発しようとするもの

【試作開発事業：5件】

上記「補助対象事業」の中で、具体的な製品の試作開発等に取り組む事業

(1企業単独の場合 補助率：1/2以内、補助限度額：1,000万円)

	企業名	テーマ名	事業の概要
1	(株)垣内	おしぼりタオルを量産化する機械の試作開発	高級感のある「おしぼりタオル」の需要は増えてきているが、今のところ手作業で対応しているため量産できない状況にある。現在のおしぼり業界での主流は「貸しおしぼり」であるが、「おしぼりタオル」のマーケットを拡大していくためには、生産性の向上が必要不可欠になるため、生産工程の機械化(タオルの安定的な吸着・折りたたみ、搬送等)に向けた試作開発を行う。
2	(株)垣内	ペレット製造機械(ダイス)の試作開発	JAや漁協関係者からニーズとして、これまで廃棄していた木質ボイラーから発生する燃焼灰や、アサリの育成等に悪影響を与える青藻などをペレット化することで、廃棄コストの削減や漁業環境の改善につなげたいという話がある。しかし、現在の造粒機では、摩耗や劣化が激しく適切にペレット化できない状況にあるため、多種多様な原材料であっても安定的に造粒できるダイスの試作開発を行う。
3	(有)坂本鉄工所	サトウキビ搾汁ラインの試作開発	サトウキビの搾汁機が古く、衛生面や処理能力、搾汁液の歩留率・回収タンクの貯蔵能力の低さなどが課題となり量産できない状況にある。そこで、サトウキビの搾汁作業を衛生的に行うと同時に、搾汁機の処理能力のアップや、搾りカスの切断搬出装置、搾汁液の貯蔵設備、搾りカスのトラックへの積み込み用コンベアの製作など、一連の作業工程を機械化するための試作開発を行う。
4	(株)進和技研	高速ポケットティッシュ製造ラインの試作開発	ポケットティッシュの国内需要は飽和状態にあり、価格競争に打ち勝っていくためには、生産能力や生産効率の大幅アップはもちろんのこと、省人力や小スペースもあわせて実現することができる機械の開発が求められている。そのため、機械1台での加工能力としては、ポケットティッシュの製造分野で世界トップクラスの加工能力を持った機械の試作開発を行う。
5	(株)久礼コンベヤー	ベルトコンベヤーのU型トラフスカート構造の試作開発	ベルトコンベヤーのスカート構造では、スカートとベルトコンベヤーの接触による摩耗が激しく、コンベヤーベルトの調整や交換を頻繁に行なわなければならない。そのため、スカート部とコンベヤーベルトの接触部を面接触とし、面圧を低減した構造に変えた新たなスカート構造を試作開発する。